

いとすぎの丘



日本赤十字豊田看護大学
Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

Vol.8

発行日／2008年10月



いとすぎ祭

■ 新学部長からのメッセージ 広島から名古屋に来て 学部長 野口 眞弓

■ 事務局長からのメッセージ

みなさんと赤十字を語りたい 事務局長 大脇 睦彦

■ 第5回いとすぎ祭

いとすぎ祭を通して得たもの

いとすぎ実行委員長 沼津 貴大

いとすぎ祭を通じて学んだこと

いとすぎ祭献血担当 山本 史織

体育祭を終えて

体育祭実行委員長3年 星野 沙織

ACサークル ファッションショー

2年 篠原 千紗

■ 学生の活動 宿泊研修

1年 石原 和朗

■ 公開講座

こころの健康シリーズ「第1回:発達障害(広汎性発達障害)」 教授 端谷 毅

■ Academic Library 図書館の季節 秋編

司書 中尾 明子

■ 研究の窓、研究室紹介

精神看護への想いと地域活動

教授 揚野裕紀子

■ オープンキャンパス報告

広報・公開講座委員 東野 督子

Information

- 平成20年度公開講座のお知らせ
- 平成20年度新任教員・新任職員
- 平成21年度入学試験日程
- 平成20年度大学の動き
- 編集後記

8月28日(木) 愛知県集中豪雨

本学の青年赤十字奉仕団員5名と職員2名が、平成20年9月2日(火)・3日(水)にかけて日本赤十字社愛知県支部から岡崎市へ救援物資搬送を行い、被災者宅に救護物資の配布をしました。



新学部長からのメッセージ 広島から名古屋に来て

野口 眞弓



平成20年4月1日付けで日本赤十字広島看護大学から本学に転任してまいりました。日本赤十字広島看護大学には平成12年から奉職し、平成16年から4年間にわたり学部長をつとめさせていただきました。広島は人類史上最初の被爆地であり、原爆投下直後の救護やその後の長期にわたる療養における赤十字の医師、看護師による献身的な活動はよく知られております。そうした歴史もあって広島の人々の赤十字への信頼と期待はたいへん強く、そうした土地での仕事は、赤十字の看護教育にたずさわる者として得がたい良い経験をさせていただいたと思います。また広島は、世界文化遺産の宮島もあり、日本神話などを題材とした演劇の要素のある里神楽も盛んで、昔ながらの伝統を脈々と受け継いでいるところでした。研究室の窓からは厳島神社の鳥居が見えまして、休日には、宮島の古式ゆかしい神事や、中国山地の農村で行われる神楽の見物によく出かけました。

本学に転任となり、生まれ故郷の名古屋に15年ぶりに戻ってきました。子どもの頃から乗っていた名城線が環状運転をしていたり、名古屋駅周辺に高層ビルが増えたりと、ずいぶん様子が変わっていましたが、懐かしい味や言葉はそのままではあったしました。何といっても、15年間封印してきた名古屋弁を何も気にせずに使えるようになったのは、たいへんありがたいことです。

看護の大学教育は、昭和27年に開始され、4年制の看護教育課程をもつ大学は、平成4年まで全国に10校程度でしたが、その後15年間に170校を超えるまでに急増し、その勢いはいまだに止まる気配がありません。赤十字の看護師養成は明治23年に始まり、その歴史はすでに1世紀以上におよんでおります。18歳人口が年々減少するなかで優秀な学生を確保するためには、赤十字への人々の信頼と期待に応え、魅力ある大学となるよう教職員が一丸となって働くことが求められております。もとより微力ではございますが、そのために全力を挙げて努力いたしますので、よろしくお願いいたします。

事務局長からのメッセージ みなさんと赤十字を語りたい

大脇 睦彦

みなさん、こんにちは。事務局の大脇です。27年の赤十字生活を経て初めて看護大学に赴任しました。看護師をこころざす多くの皆さんにお会いできたことを、

心から嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、着任から半年近くがたとうとしていますが、今わたしは皆さんとの「カウンターを隔てた関係」に一抹の寂しさを感じています。自称赤十字フリークの私としては、大学ではみなさんと赤十字を語りあう機会がたくさんあると期待していたものですから。

いまさらみなさんに紐解きをするまでもなく、赤十字は人が人として健全な生活を送るうえで必要な事業を幅広く展開しています。「赤十字ムーブメント」と呼ばれる所以ですね。わたしはこれまでそんな赤十字の現場を歩くなかで、赤十字がもつ普遍性やネットワークのすばらしさを幾度となく感じてきました。例えば（ほーら、熱が入ってきましたよ）、赤十字はどこかの被災地でもどの救援機関よりもよく知られていて、信頼をもって迎えられます。言葉が通じない救援の現場でも、赤十字の旗を立てた車が到着すると早速被災者が取り囲みます。そして活動を終えて戻る赤十字の車に子どもたちはいつまでも手を振り続け、赤十字の活動は彼らによって語り継がれます。

こうした現場で、赤十字の象徴となって働く人たちがいます。そう、赤十字看護師です。彼らの傷つき悩む被災者をいたわる姿は、わたしたち同じ赤十字のスタッフの胸をも熱くさせます。

わたしは、赤十字看護師として巣立っていくみなさんが、大学での4年間に一度でも多く赤十字のすばらしさに触れることを願っていますし、事務局として赤十字の活動例や時々のトピックスをお知らせしていきたいと考えています。赤十字の幅広い事業は、きっとみなさんに様々な人との出会いや自己実現の場を提供してくれることでしょう。

最後になりますが、毎朝学内に流れる歌を知っていますか？『戦わなくていいんだよ、好きになっちゃえばいいんだよ…』って子どもたちが元気に歌ってるあの曲、「クリスタルチルドレン」といいます。

4月の中旬、NHKみんなのうたで放送されていたもので、この歌詞は子どもたちに平和な未来をもたらしたいという思いで書かれたそうです。けっして赤十字のために書かれた歌詞ではないのですが、赤十字が求めているところをわかりやすく歌ってるんですね。

これを機会にこの曲にあらためて耳を傾けてみませんか。みなさんが将来看護師として活躍される場でふとしたときにこの曲を思い出

して、赤十字のこころを思いながら口ずさんでくれたら、うれしいなあーっ。そして事務局はいつでも皆さんの来訪を待っていますよ。



第5回いとすぎ祭

いとすぎ祭を通して得たもの

いとすぎ祭実行委員長 沼津 貴大

第5回いとすぎ祭も無事に終わり、振り返ってみると様々な出来事が思い出されてきます。いとすぎ祭は無事に終わるまで、本当に多くの困難にぶつかりました。それは私自身もぶつかりましたが、実行委員会の役員も勿論、ぶつかったことでしょう。その多くの困難があったからこそ、第5回いとすぎ祭が存在したのです。

いとすぎ祭と言えば、看護大学らしさというような、この大学オリジナルの企画やイベントを作りたいという思いと意思が強く新しい企画を織り込んだり、今までの企画を昨年よりもパワーアップさせたりと、力を注ぎました。昨年の先輩たちの意志を受け継ぐと共に、今年の第5回いとすぎ祭実行委員会にしか出すことの出来ない色や意思・思いをそれに加えました。いとすぎ祭は、毎年開催されますがそれで終わりではありません。いとすぎ祭を作るにあたって、代々役員から役員へと思い・向上心・意志が受け継がれていきます。それは知らず知らずの内に受け継がれるものなのだと思います。



いとすぎ祭の活動を通して私は、仲間の信頼とつながりということを得ることができたと思います。私の頭の中では、いとすぎ祭は忘れられないものです。そう思えるのは、今まで支えてくださった仲間たちのおかげです。一人ではできないことは、誰かに助けを求めて助けてもらう。そんな簡単なことさえも、できなかった私に多くのこと、多くの力を与えてくれたのも仲間の存在があってこそでした。

この仲間と再びいとすぎ祭を創ることは、もうありません。たった一度きりしかないいとすぎ祭でした。この仲間の中で、1年生から3年生まで年の差を気にすることなく何でも言い合え、ぶつかり合える関係は本物だと感じています。朝早くから夜遅くまで仕事をして、笑い合ったり泣いたりした日々は決して忘れられるものではありません。今年のいとすぎ祭、楽しかった。そう言ってくれることが一番であり、その分仲間に感謝の気持ちで一杯になります。

最後になりましたが、いとすぎ祭に協力してくれた人全てに感謝しています。本当にありがとうございます。

そして、いとすぎ祭実行委員の仲間たち、本当にあ

りがとうございます。これからもよろしくお願いします。



いとすぎ祭を通して学んだこと

いとすぎ祭献血担当 山本 史織

今年初めて学祭委員として関わる事となったいとすぎ祭。今までは「なんとなく参加する」という受身だった大学祭に、自分が委員として関わることになるとは夢にも思っていませんでした。

私が担当した献血は赤十字社が行っている事業の一つあり、私個人もFe++サークルという他大学の大学祭に献血の呼び込みのお手伝いをするというサークルに所属していたので「今までの大学祭よりも盛り上がるものにしたい」という思いが強く、「どうすれば興味を持ってくれるのか」「どうすればたくさんの人に協力してもらえるのか」について意見をまとめ、形にしていくのは本当に大変でした。お互いの意見がぶつかり合う事も多々ありましたが、それでも完成したときの達成感は格別のものがありました。それは他の担当も同じであったと思います。

大学祭当日は午後からあいにくの雨となってしまいましたが、献血にとっては恵みの雨となり過去最高の受付者数・採血者数となりました。また学祭委員で空き時間を利用して練習してきたフィナーレも無事に進行することができ、最高の形で幕を閉じることができました。協力して頂いた皆さん、本当にありがとうございました。

今回この大学祭を通して、本当の意味での仲間の大切さやみんなで一つのものを作り上げていく大変さ・楽しさを学ぶことができました。「学祭委員をやって本当に良かった」と心から思っています。今回の大学祭に関わってくれた皆さん、本当にありがとうございました。



体育祭を終えて

体育祭実行委員長3年 星野 沙織



今年度は前年度に引き続きTHE☆にこりんのメンバーを中心に、サークル以外の学生、編入生を含めた計42人で体育祭を運営しました。今年は私が体育祭委員長ということで、自分が引っ張っていかなくてはいけない立場になり、常にプレッシャーを感じていました。



今年度は前年度の反省点を生かし、早い段階から準備を入念に行ってきました。企画書は何度も書き直してもらい、厳しくチェックをしました。そしてリハーサルは4回行い、召集の仕方や場所、競技の細かいルールや流れ、物品や審判の配置にいたるまで気になることは一切妥協をせず全て確認しました。また、雨天時を考えて晴天時と同じようにリハーサルを行い、同時進行で準備してきました。そして、今回は学生用のパンフレットと委員用のパンフレットの2種類を作成して、情報共有ができるように工夫しました。

委員長としての仕事は体育祭実行委員をまとめるだけではなく、体育祭の予算交渉、学祭委員長や自治会との連携、先生方への報告会、書類作成、施設利用や学内物品の申請、バスダイヤの変更のための話し合い、保険加入などすることが多く大変でした。

当日は天気にも恵まれました。準備の甲斐あってバレー、リレー、棒とり、障害物リレー、玉入れ、ハリケーン、綱引きとすべての種目がスムーズに進みました。玉入れは今年初めて取り入れたのですが、「懐かしい」という声も聞かれ意外に好評でした。また、チ



ームでユニフォームやTシャツを揃えて気合いを入れているところも多く印象的でした。学生の楽しむ姿を見ることができて嬉しかったです。体育祭を無事終えたときには達成感と充実感を味わうことができ、とても貴重な体験をすることができました。

私が委員長を最後までやり通すことができたのも、多くの方の協力があったからだと思っています。一緒に運営した実行委員をはじめ、体育祭のために力を貸してくださった皆様、本当にありがとうございました。



ACサークル ファッションショー

2年 篠原 千紗

私達がきちんと活動を始めたのは本番1ヶ月前くらいでした。ほとんど服作りの経験がない私達は、どうしても思い通りに服を作ることができるのか分からず、手のつけようがありませんでした。そこで、唯一経験のある隅田君を中心に、放課後や休日に皆で集まって作業を進めました。ですが、時間が足りず本番間近になって皆で夜を徹して作業をし、とても大変だったことを覚えています。しかし、私達のファッションショーはすごく良いものになったと思います。今では大変で辛かったことが、とても良い忘れられない思い出になりました。

今年からは去年のファッションショーを基盤に、新しい取り組みとして、メイクやヘアの担当、音響・演出の担当を決めたことによってショーに携わる人数が増えたため、様々な角度から1つの作品を捉えて意見交換をすることができ、完成度の高いものができたと思います。またモデルとして参加してくれた人も、忙しい中で何回もリハーサルに参加し、それぞれが自主性を持って取り組んでくれたので、より良いショーをつくりあげることができたと思います。

当日は、一生懸命準備してきたものの、ハプニングがあったり、お客さんが集まってくれるかなど不安もありましたが、自分たちが思っていた以上に反響が良かったので「自分達だけでなく皆も良かったと思ってくれているんだ」と自信になりました。

このショーの成功は自分たちの力だけでなく、協力してくれた全ての人達のおかげだと心から思います。私達にとって、このファッションショーは忘れることのできない大学生活の思い出になりました。



学生の活動

宿泊研修

1年 石原 和朗

宿泊研修は入学して間もないこともあり、期待と不安でいっぱいでした。入学したばかりでそこまでみんなと仲良くなかったし、全然楽しくないんじゃないかとか、友達できるかなとか、いろんな不安がありました。でも研修を通して友達と仲良くなることができ、またいろんな人のことがよくわかり、すごく楽しかったです。

何事も最初が肝心なので、この宿泊研修でできるだけたくさんの人と語り、輪を広げていくべきです。まあちょっと緊張するかもしれないけど、そこはお互いなのであまり気にしないでいいと思います。

エアロビは意外に体を動かしたから疲れたのですが、インストラクターの人がおもしろかったです。初めて



やる人が大半なのに、あたかも常識かのようにパンパン動くことにもなりました。インストラクターの人の元気はハンパな状態ではなく、エアロビをやったという記憶よりインストラクターの人の動きが印象的でした。

グループ活動はみんなで話し合い、作業したので良い経験になりました。そこでも遠慮することなく、がんがん自分の意見を言っていて、「うざいなこいつ」って少々思われるくらいがいいと思います。緊張するかもしれないけれど、最初が肝心です。この最初の一步をあなたが踏み出すにかかっていると言っても過言ではありません。

今回の宿泊研修を通して友達と仲良くなることができました。とにかく宿泊研修は良かったです。



公開講座

こころの健康シリーズ 「第1回:発達障害(広汎性発達障害)」

教授 端谷 毅

広汎性発達障害は自閉症などを含む一連の疾患です。自閉症は1) 言語の障害 2) 対人関係の障害 3) 認知の障害 4) 行動障害が強く出ており、だれでも異常とわかる程度の重症な方です。アスペルガー症候群は自閉症で言語の障害がない人。さらに広汎性発達障害はもっと広く、コミュニケーションが苦手な人を指します。

しかしこれらは普通と呼ばれている人にも良くある事です。ここで障害や病気は「その人が困っている。」または、「周りが困っている。」と考えて欲しいと思います。

特にアスペルガー症候群は「察することの障害」と捕らえると解りやすいと思います。

言語性コミュニケーションが苦手な、1) 慣用的な言い方や、たとえ話がわからない(寄り道しないで、まっすぐ帰る) 2) 簡単な会話が苦手ではなしが回りくどい(最近どう? 気をつけてね。どうやってここに来たの?) 3) 難しい言葉を知っているが、意味を理解しない(2つ以上の意味があるとき1つのみの可能性あり) 4) 会話がかみ合わず、人の話を聞いている(外国語のような言語、騒音の中での聞き分けに障害)。

また相手の気持ちやその場の状況を読み取れない、非言語性コミュニケーションも苦手です。1) 相手の気持ちを感じ取ったり、自分の気持ちを表すのが苦手(表情が読めない、悪気がない) 2) その場の状況を読み取れず暗黙のルールがわからない(それとって、



あそこにおいて) 3) 話が一方的で突然話題が変わる(相手がいることが認識できない) 4) 「手伝って」「助けて」ということを相手に頼めない。

アスペルガー症候群とはこんなことが苦手な子供達です。私達は1歳や2歳の子供達には情動的会話を期待しません。その子の年齢に応じた対応を期待します。しかしその部分の能力が少し年齢に達していないと、そのお子さんは周囲から浮いてしまったり、いじめられたりしてしまう事があります。アスペルガー症候群は私達周囲の大人の想像力の欠如によって、そんな子供達の生活を困難にしているのかもしれない。

昨年4月に発達障害者支援法が施行されました。その法律において(「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他(略))と定義し、すべての国民が発達障害を理解しなければいけないことが法律で決められました。

しかし彼らを理解することは、すべての子供達を理解することにつながると思います。

(平成20年6月28日開催)

Academic Library

図書館の季節 秋編

司書 中尾 明子

新入生も図書館の使い方少し慣れてきたことでしょう。図書館員はこの季節になると、図書館リピーターとなった1年生の顔を覚え、実習に行き始めてコアなりピーターになり始めた2、3年生の貸出カウンターでの接し方の成長ぶりに驚かされます。そして、まるで図書館員のように毎日出勤(?)し、決まった座席で学ぶ4年生の姿もあります。

さて、ゼミレポートや卒業論文を作成する際に、参考文献を探そうと思っても、本学図書館に無い場合があります。一般的には他大学図書館より文献複写を取り寄せたり、図書そのものを借りるILLというサービスを利用します。これについては、「いとすぎの丘」Vol.6 p.7 Academic Library「図書館とILL」を参照してください。

もう一つの方法として、主題コレクションを多く所蔵している他大学図書館を直接訪問し、資料を閲覧させてもらい、必要部分を複写する方法があります。この方法の利点は自分の目で文献を確かめられるので、本当に必要な文献のみを手で、参考文献のみでは

なく、思いもかけぬ辺縁資料に巡り会う可能性があることです。

本学図書館は東海地区大学図書館協議会に所属しているので、協議会員であるほとんどの図書館を紹介状なしで利用できます。ただし、紹介状は必要なくても「利用希望」の旨を当該図書館へ連絡することをお忘れなく。それが来館のマナーです。来館の際にはもちろん、学生証の携行も必要です。

「思索の秋」「読書の秋」・・・いろいろな図書館サービスをご利用してください。



(※写真は新しく所蔵し始めた「ケア その思想と実践」のシリーズです。一部未刊)

研究の窓、研究室紹介 精神看護への想いと地域活動

精神看護学教授 揚野裕紀子

日本赤十字豊田看護大学の開学と同時に、この豊田の地に赴任して5年目を迎えました。私が所属している精神看護学領域は、小林純子准教授、林和枝助手、中村千鶴助手と私との4人で担当していますが、中村助手が育児休暇のため現在、3人体制で奮闘をしています。

精神看護は、精神に障害をもつ人を対象とするだけでなく、一般の病院に入院している人や地域で生活している人も、また、子どもからお年寄りまで全ての人のこころの健康を対象にしています。そして、講義では学生に、医療の中だけではなく、普段の生活の中でも人と関わるときの温かい関心や見守りや言葉かけの大切さを伝えています。研究活動としては、学生への教育を対象とした、「健康的側面への着目の促進を目指した看護過程学習支援システムの活用ー精神看護学(精神看護学技術演習・看護過程演習)に導入してー」(小林、林他)・「精神看護学臨地実習における看護学生のとらえに関する研究ー精神科看護師の実践過程の内容分析ー」(揚野他)、臨床実践を対象とした、「精神科急性期病棟の看護師における家族支援に関す

る研究ー支援の具体的内容とその効果ー」(揚野、中村他)等を行っています。

私達は、講義・演習・実習指導など日々の業務や研究活動はもちろんですが、地域における活動にもできるだけ取り組むようにしています。今年度、地域活動は2つあります。1つは、精神科病院からの依頼で、看護実践のレベルを高める為の院内教育として講師依頼が複数の病院からあり、教員で担当し協力をしています。テーマは、「看護過程の展開について」や「看護理論と記録について」等です。2つ目は、豊田市内にある地域生活支援センター「エポレ」から「精神障害者 家族教室」の6回シリーズの開催に関して企画と共に講師を依頼されています。参加されるご家族の皆様にとって有益な内容にしたいと企画を検討中です。

今後も、私達の精神看護学領域の知識や技術を活かせる機会があれば可能な限り地域での活動の場を広げて行きたいと考えています。



オープンキャンパス報告

広報・公開講座委員 東野 督子

去る7月26日(土)、8月23日(土)に平成20年度オープンキャンパスを開催いたしました。

両日合わせて471名の参加を頂き、盛況のうちに実施することができました。オープンキャンパスは、受験を希望する本人及びその家族の方を対象に、午前9時から午後3時まで大学構内を解放し、大学の施設を見学いただき、また在学生、教職員ともお話しいただくことで、当大学の教育環境や、実際に行われている講義や、大学が行う生活支援の状況を把握していただく目的で行っています。

今年の開催内容は、前半の部では、学部長による「大学の概要」の説明と、入試委員長による平成21年度の入試の要点などの説明がされ、「カフェテリア」におけるランチサービスの昼食をはさんで、後半の部では、「カリキュラム」や「奨学金」や「学生生活」



について、来場者からの質問に対して在学生・教職員が説明を加えたり、講義室・演習室などを自由に見学していただきました。

参加者は愛知県、三重県、岐阜県、静岡県の順に多く、全体の87.0%を占めましたが、中には沖縄県、新潟県などの遠方からの来場も頂きました。アンケートの「あなたの知りたかったことをこのオープンキャンパスで知ることができましたか？」の間では、「知ることができた」とする回答が87.7%であり、おおむね来場者の期待に答えることができたと考えます。しかし、教職員や在学生と対面する相談コーナーの利用は41.7%と、やや少なくまだまだ利用いただけるように思いました。



今回の来場者の方々の声を、次年度のオープンキャンパスに反映したいと考えています。たくさんのご来場に、お礼を申し上げます。

オープンキャンパスの参加人数

		開催日		
		7月26日(土)	8月23日(土)	合 計
対象者	受験者 高校1年生	8名	10名	18名
	高校2年生	18名	46名	64名
	高校3年生	98名	134名	232名
	編入学	3名	3名	6名
	社会人	2名	1名	3名
	その他	3名	1名	4名
父 母 等		59名	85名	144名
合 計		191名	280名	471名

Information

平成20年度公開講座のお知らせ

講座名・担当	日時・場所	内 容	人 数
①第三回 心の健康シリーズ 担当領域：専門基礎 担当者：端谷 毅教授	平成20年10月25日(土) 10:00～12:00 本学内	うつ病 ストレスがものすごく強ければすべての人が心の病気になります。うつ病もその心の病気の一つです。そして、うつ病も脳の病気です。現在国民の15%が一生に一度はうつ病になるといわれています。うつ病の正しい知識をもって、早期発見・早期治療、そして予防をしましょう。	50名程度
②はつらつ生活は食育から	平成20年11月8日(土)	健康を保つには、食育が重要であるという内容の講義を行います。また、簡単な料理の紹介も行います。	50名程度
③第四回 心の健康シリーズ	平成20年12月20日(土)	認知症 年齢とともに記憶障害は始まりますが、認知症とは異なります。認知症は治らない病気ではない時代になっています。認知症の実態と治療法を知り、早く適切な対応を考えましょう。	50名程度

平成20年度新任教員

学部長	野口 眞弓	(母性看護学)	4月1日付
准教授	大野 晶子	(成人看護学)	同
准教授	栃本 千鶴	(地域看護学)	同
講 師	高野美代子	(地域看護学)	同
助 手	岡田 葉子	(成人看護学)	同
助 手	水野 妙子	(母性看護学)	同
助 手	大矢みつ子	(小児看護学)	同
助 手	高見精一郎	(専門基礎)	5月1日付
助 手	鈴木 奈奈	(地域看護学)	7月1日付
助 教	福山 由美	(地域看護学)	9月1日付

平成20年度新任職員

事務局長	大脇 睦彦		4月1日付
係 長	中島 伸一	(経理)	同
係 長	市川 義広	(入試広報)	同
主 事	榊原 聖博	(総務課)	同

日本赤十字豊田看護大学平成21年度入学試験日程

試験の種別	出願期間	試験日	合格発表
一般入学試験	平成20年 12月15日(月)～ 平成21年 1月26日(月) 消印有効	平成21年 1月31日(土)	平成21年 2月6日(金)
日本赤十字社中部各県支部 長推薦入学試験	平成20年 11月1日(土)～ 11月12日(水) 消印有効	平成20年 11月29日(土)	平成20年 12月5日(金)
高等学校長推薦入学試験 (公募制)	平成20年 11月1日(土)～ 11月19日(水) 消印有効		
社会人特別選抜入学試験			

平成20年度 大学の動き

月	行 事 予 定
9月	後期授業開始(29日)
10月	履修期間及び履修変更期間
12月	冬期休業開始(27日)
1月	冬期休業終了(12日)
	基礎看護学実習(1年生)
2月	追再試験補講期間
	春季休業開始(28日)
3月	卒業式(学位記授与式)
	春季休業終了(31日)

編集後記

皆様のご協力をいただき、無事に「いとすぎの丘」Vol.8を発行することができました。心からお礼申し上げます。

本学も5年目を迎えて人や体制に動きもあり、今回一部を紹介できたかと思います。また、学生達の活動も紹介しました。「いとすぎの丘」は学内報でありながら、大学を外部に紹介する資料でもあります。その編集方針を検討する時期にもきているかと思います。

ご意見がございましたら、企画課までよろしくお問い合わせいたします。

いとすぎの丘 Vol.8

発行日／2008年10月

編集・発行／日本赤十字豊田看護大学

広報・公開講座委員会、企画課



〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228 FAX 0565-37-8558

E-Mail info@rctoyota.ac.jp

HP http://www.rctoyota.ac.jp